時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セス無代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

各地方より時事新報の注文に付

時事新報社は注文に接するも代價を受取らざる間は遞送せざる定めあるに新規注文の方には往々代價を添へずして唯だ注文のみの書面に止り本社は更に代價請求の端書を發し代金を受取るまで遞送を差控へ居り候事にて雙方の不便あれば御注文の節は必ず代價を添へて御申込被下度尤郵便切手代用は御斷申上候

代價を受取りたる時は直ちに新報を遞送し其帶封名宛の傍に何月何日と記入致し候是れは右の月日まで新報の代價遞送料共相濟候證に付別に受取書は不差出候左樣御承知可被下候

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を申受く可し

時事新報

豫算減額の變則

九百萬圓削減の豫算査定案を始めとして曰く七百萬圓曰く五百萬圓とおの〳〵其見る所によりて議員中に說を分ち結局何れの邊に議決すべきやを知らざるは豫算に關する前日の景況なり抑も此數の削減額は何を標準として定めたるものあるや理論上豫算を以て法令を變更するの當不當は暫く措いて問はずとするも斯して改正を加へたる官制は行政の機關として洵に適當のものなるや將た某々費目の廢除削減は果して正鵠を得たるものあるやと云ふに議員自身に於ても恐らくは然りと答ふること能はざるべし蓋し官制を改正して行政の機關方法を一新せんとするは決して容易の業にあらず況んや積年當局者の因循姑息にて豪奢濫費の弊を釀成したる因緣由來ありて互に錯綜せる明治政府の組織を釐革するは一朝一夕の固より能くし得ざる所あるに行政の作用に最も不熟練ある議員諸氏が僅々一兩旬の批評を以て匆々事を了せんとす其恃む可らざるや論を俟たざるべし九百萬圓或は可あらん未だ以て其改正官制の允當あるを證するに足らず七百萬圓亦或は可あらん未だ以て其一新したる行政の機關方法を是ありとすること能はざるなり要するに削減の金額は大體に於て漸次に認定するを得べしと雖も之を急劇にして行政上に實行する事の難易を查定するは充分の攻究を盡すに非ざれは不可あり若しも彼の月旦評に似たるが如き筆法を以て豫算查定の能事畢れりとせば我輩は必ずしも二週餘の時日を要せず今日忽ち算定して明日直ちに呈出するも敢て難しとなさゞる所あれども左りとは既に責任の範圍を脫したる上の職にして政務に親切あるものゝ爲す所にあらず或は强ひて辨護を試むる者ありて豫算委員が查定に從事したる時日こそ一兩旬あれ是れより先き政治家の任務として既に久しく取調べたる所ありと云ふもあらん歟あれども彼の有名ある政務調査は果して如何ある材料を得て又如何に攻究を費したるや當時政界の模樣たる黨派の離合集散に忙はしくして實地の政務に週羅及ばざりしは掩ふ可らざるの事跡にして其結果の九百萬圓削減說となり七百萬圓となり五百萬圓となるも實地に指示す所は皆是れ假算のみ決して政務上の當否得失を吟味して宜しく減ずべきを減じ廢すべきを廢し良心に問ふて遺憾なきの手續を盡したるに非ざるは又爭ふ可らざる所なるが如し

豫算に對して議員の查定する所は決して適當の論據を有するものに非ず然らば豫算は原案の儘にして通過すべきか政費は節減す可らざるかと云ふに否々然らず政務に冗費多きは何人も許す所の事實にして其證據に乏しからざれは之を削減したればとて施政の實際に妨げなきのみか人情の弱點として傍より之を削減するに非ざれば自ら節制を加へて儉約の實を擧ぐるものに非ず從來の政府に於ても屢々節制を加へんとして而して其行はれざりし所以は必竟右の弱點に外ならざれば此回國會の開設したる上は其議決によりて豫算を削減し行政部をして冗費の餘裕あからしむるは頗ぶる必要の處置なるが故に我輩に於ても成るべく政府を制肘せんと欲する者なれども左ればとて議員等が開會匆々不案內の手を以て直ちに官制改革に迄も進入し行政の巨細を一々料理せんとするに至ては理固より適當の方法を施し得べき筈あきのみか偶々政府に不認可の口實を與ふるに過ぎずして却て冗費を節減するの素志を空ふするに至ることあるべし況んや明治政府の冗費なるものは重に彼の情實に附帶したる結果にして維新の砌、或は人を殺したるもあり或は火を放ちたるもありて此等は何れも當時創業の功勞にして之が爲めに高官に任し今猶は動かす能はざるもの甚だ少なからず斯る種族を淘汰して代ふるに少壯無事に苦しむの後進官吏を以てするときは彼是融通の道を得て政費の上には莫大の節減を見ることを得べしと雖も其殺人勳と云ひ放火勳と云へる種々情實的の仔細の如きは民間代議士の得て詳かにせざる所あれば眞の冗費の所在を辨せずして强て豫算を削減したる其結果は無用の費目を減せずして却て必要の邊に向ひ意外の不都合を釀すことある可し之を要するに豫算案を查定して一々廢除削減の費目を指圖するは俄かの事とて國會の能くし得ざる所あれば綿密の調査は後會に讓るとして兎に角に政費は漸次に削減す可き者と認め今回は先づ歲出總額の三分乃至四分即ち二三萬圓を減じ其上の事は都て政府の德義に一任して實地の取計らひを付託する時は事に過ち少なくして處置甚だ穩當ある可し尤も右の如く豫算案を查定せずして政費を認定するは決して議事の正則にあらざれば政府は法律上國會の此所望に聽從するの義務なしと雖も八千萬圓中より二三百萬圓を削減すべしとの認定は政府も爭ふ能はざるの認定にして漠然たりとて咎む可らず又德義上苟る可らざるの責任あれば雙方納得の上イヨ〳〵之を實行するに當ては政府は今の豫算案を撤回し更に二三百萬圓を減じたる豫算を呈出して國會は一議に及ばず之を可決するとも其邊の方法は難からざるべし或は斯る變則にては議會の信用を傷け價値を損するの惧れありとて決斷に躊躇するもあらん歟あれども實際前記の如く匆忙の中に開設したる國會にして充分に正則を行ふこと能はざる場合あれば大計を後日に期して暫く變則に從ふこそ國の爲めに謀りて却て親切ありと云ふべく將た議會の精神に背かざるものと云ふべし

國會議事堂は一夕祝融の災に罹りて豫算案の討議も今や休會中のことあれば議員諸氏は定めて調查に專らなるべし我輩の敢て勸告する所以あり

官報

○遞信省告示第十六號

南亞米利加智利國內亂ノ爲メ同國アントフアガスタ以南地方ヘノ電氣通信ヲ停止シタル旨萬國電信總務局ヨリ通報シ來レリ

明治廿四年一月廿三日　遞信大臣伯爵後藤象二郎

○佛領東京石炭の景況　佛領東京石炭の景況に附き香港駐在帝國副領事宮川久次郎より本月九月附を以て左の如く報告あり(昨年九月十三日及十月二十二日外報欄參看)(外務省)

佛領東京にて目下開掘準備中なる石炭坑ケバオ、ホンガイ及ドングトリユーの內工事の最も進步したるはケバオにして未だ井坑を穿つの運に至らざるも既に地上の炭層に橫坑を掘りたるを以て漸次出炭の量を增し且つ其橫坑を深く掘入るに從ひ炭質も良好と爲る趣あり而して右ケバオ炭坑會社は其採掘せし石炭を以て差向東京國內の需要を充すを目的とし頻に其販路を開くの計畫を爲し昨年八月中同社にて買込約定を爲せし高は「メサジユリー、マリチーム」郵船會社へ每月六百噸宛「コレスポンダンス、フリユーヴイアル」會社へ一箇年一萬噸づゝにして其價格は炭坑棧橋渡にて一噸五弗五十仙位なりとのことなり又近日の報に據れば同社は其所持の石炭二千噸餘を「メサジユリー、フリユーヴイアル」會社へ賣却し尙は追々東京內に需要增加の見込ありと斯の如く東京內にてケバオ炭の需要增加する所以は畢竟其炭質好良なると外國炭に比して其價低廉なるとに因るべければ外國炭は自然其勢に壓倒せられ東京國內に跡を絕つに至るべし而してケバオ炭坑會社が其石炭を海外の市場に運出せず先づ頻に生產地に於て其販路を求むるは同社のため策の最も得たるものと謂へし其故は東京は日に月に繁盛に赴くの際なれば將來石炭の需要も益々增加すべきが故今より充分に顧客を求め置くは最も必要にして其出炭の量假令多額に昇るも販路に苦まず且つ同社は「ホンガイ」炭坑會社(即ち東京炭坑會社)に比すれば其媒田狹少にして資本も亦裕ならざるのみならず其會社員は皆佛人なるを以て其石炭を海外即ち香港等に運出販賣するの便宜は「ホンガイ」炭坑會社に數步を讓ればなり

「ホンガイ」炭坑會社は名は佛國會社なれども其實株主は多く香港に在る英商にして其內には(チエーターケズ井ツキ)モーデ井ー等の如き英商中錚々たる者あり其計畫も頗る宏大にして區々たる東京國內の如きは措きて顧みず先づ香港を中央として全東洋の石炭市場に勢を張らんとするの目的にして目下僅少ながらも出炭なきにあらざれども一塊だも市場に賣出さず其價の如きは日本及濠洲炭と比較して品質相當の高を唱へ偶々東京內にて買手あるも賣渡すことを欲せざるの風あり其故は炭脈を區劃し井坑を穿ち鐵道を敷き棧橋を架し總て充分の用意整ひ何時にても無限の需要に應ぜらるゝの地位に立至り始て之を市場に運出するの計畫にして愈々同會社にて石炭を賣出すの暁に至れば實に目覺しき運動を爲すべしとは目下世人の一般に稱道する所なり又同會社創立の際募集したる二百萬法(總株金は四百萬法なれども半額は株券を以て前坑主シヨツアルへ與へたるものにして實際募集せしは二百萬法あり)は悉皆既に工事に使用し盡したるを以て曩に報道せし如く更に同社の所有物を抵當とし海防銀六十萬弗の債券を發行することに決し目下香港にて募集中なり而して同社炭坑開鑿事業の全備するは早くも今年末頃なるべしと雖へども現今敷設中なる鐵道竣功すれば多量の石炭を供給し得べきを以て今年六七月頃には石炭を香港へ輸送する見込ありと云ふ

東京石炭を使用するの祕密は全く燒燃法にある者の如し炭坑開掘の最初は該炭の燒燃法を知らざりしを以て試驗の結果兎角宜からず已に香港へも二三百噸を送り各所に於て試驗せしも其結果何も不滿足にして到底一般汽船用と爲る者にあらずとの評ありしも其後東京國內にては追々該炭使用に熟達し且つ燒燃法を發見して好結果を得たるを以て目下世評宜しく唯汽罐內鐵網の構造少しく改むれば同炭は一般汽船用と爲すに足れりと云ふ頃日東京炭坑會社より更に試驗のため若干を送り香港に於て之を小汽艇內に燃用し關係の人々に一覽せしめしが其試驗に用ひたる汽罐は內部の鐵網の棒と棒との距離尋常のものより甚だ大にして其空間一寸餘ありて扇風器は備へざりしも總て空氣の流通迅速なる樣に仕掛け使用したる石炭は頗る大塊なりしと云ふ而して僅かに石炭の一面に燃附く時は其火力猛烈にして著しく其石炭を不斷使用せば汽罐の損傷早かるべしとの感を惹起さしめし程なりしと云ふ(香港內に在る某小汽艇には既に東京炭を燃燒すること五箇月餘に至れども汽罐に毫も損傷なしと云ふ)又頃日香港廣東瑪港汽船會社は其汽船に香港廣東間一回往復の航路に足るべき分量(凡そ十五噸)を試燃せしが(其汽罐內の裝置は前記小汽艇と同樣にして別段扇風器を設けず)其結果を聞くに火力充分にして灰少く且つ現今同社にて使用する三池切込炭に比すれば炭量凡そ一割を減したる程にて同社は頗る滿足せりと云ふ

東京石炭は無煙炭にして殻炭の分量甚だ多く揮發物少きを以て之を燃すには空氣の流通迅速なるを要す而して汽罐內に空氣の流通を善くするの仕掛は前記の如く鐵網を改造するの外別段手數を要せざるものゝ如し然れば從來仙炭を使用したる汽船にして一旦東京炭を常用と爲すに至りても其汽罐內改造の費用甚だ些少なるべきが故に此改造入費を要するがため東京炭の一般使用上に大なる障礙を與へざるべきことを揣知すべし然し其改造は鐵網の棒と棒との間を廣くするにあれば燒燃する所の石炭は大塊ならざるべからざるを以て粉炭を使用するの途に苦むべし故に粉炭使用の道を發見するまでは坑主は止むを得ず塊炭の價格を引上げざるを得ざるべし

茲に一問題あり歐洲と日本支那間に航する荷船の如きは支那海に於ては東京炭を使用することを得るとするも一旦新嘉坡以西即ち東京炭の不融なる地に到り濠洲產其他の石炭を使用せんとする場合に際し容易に燒燃を仕得ゆることを得べきか若し航海中出貿を要せず容易に之を爲し得るものとすれば最も都合宜しと雖も若し爲し能はざる場合に於ては其不都合言ふべからざるべし目下此點に就きては未だ判然せざるが如し東京炭か愈々香港の市場に出たる後は其景況如何なるべきやは今より之を豫知することと難しと雖も此點に就き需用者の意見を聞くに凡り新奇なる

ものを好むは
の貨物を積載
は些少の失費
んとする有樣
は勿論陸上の
景況に至りて
の如く香港に
社重役の一人
にして風指の
の力に依ると
港に於て石炭
るチエー、チ
長にして是亦
し頗る有力家
精所を有し又
船會社の總理
し東京石炭に
日本炭を棄て
獨り香港のみ
に顧客を得る
の價にて賣買
若し日本炭と
噸一弗を加へ
最低價を示し
んとするとき
港市場に出る
炭も亦大に其
良質のものは
るは難きにあ
からず

○橫濱の生
一方に傾
九十番は
ち一變して
ても少々
あき有樣
かば內商は
此迄內商は
弱氣の折
賣放した
非方高直
說あり或は
めたるも
より九十番
報を確め
に着手せ
八番、百
は〳一昨
一番館も
百個程既
より考ふ
然現はれ
市場の活
○水戶鐵
を買入れ
て談判
りたるが
て兩三日
は今度の
合中あれ
云へり又
しも右に
入るゝ
んと噂せ
破談の氣
ときは日
了りたる